

今年度事業計画など報告

技術士会中国支部が年次大会

(公社)日本技術士会中国本部(大田一夫本部長)は12日、広島市中区の市文化交流会館で平成26年度年次大会を開いた。26年度事業計画や収支予算書などの報告を行



あいさつする大田本部長

ったほか、会員拡大やサービス向上をねらいに、県支部設立に向けた活動を強化していくことなどを申し合わせた。冒頭、挨拶に立った大田本部長は、昨年度に述

べた『多様なCPD機会の提供』『内向きから外向きの活動への転換』『県支部の早期設立』の3つの抱負に関するそれぞれの活動状況などを報告。延べ参加者人数が24年度を上回った、多様なCPD機会の提供では、さらなるサービス向上へ部会設置の有効性などを述べたほか、「現体制の役員は折り返し地点を迎えた。この3つの抱負の実現に向けて、一致団結して取り組んで成果をあげ、来年の中国本部設立50周年を迎えたいと考えている」と語り、会員各位に一層の支援と協力を呼びかけた。

このあと、大田本部長がパワーポイントを用いて東京で開催された第56回定時総会の概要を報告。また、中国本部における25年度事業報告・収支決算書、26年度事業計画・収支予算書及び組織体制などの説明が行われた。その中で、26年度事業計画では、引き続き技術士の資質向上、社会貢献活動の推進、戦略的な情報発信及び地域に密着した活動などを積極的に展開していくことを申し合わせ、会員拡大に向けては、会員サービスを隔々まで届けることを目的に、県支部設立に向けた活動や会誌購読者募集に関する活動を強化していくことを話し合った。

このほか、年次大会終了後は、広島修道大学人間環境学部長の三浦浩之教授が『都市計画から都市戦略へ』広島をどうしていくか』をテーマに講演。議論が進んでいるサッカースタジアムの候補地選定などをふまえ、三浦教授は都市間競争に負けない都市戦略の視点的重要性などを強調した。